

会員通信・会記

が多くて、カーボンの量が少なく、アルコール液に入ると、印刷した文字が短時間に薄くなり、実用に耐えない。

筆者の現時点の結論としては、以下の方法をおすすめする。1) ドットマトリクスインパクト方式のプリンターを使用する、2) 耐アルコール性プリンターリボンを使

う、3) ラベルが万一破損したときに備え、登録番号など標本のデータを引き出すことできる情報を標本びんの中に入れておく（布製、金属製、もしくはプラスチックなどの番号札）。

（松浦啓一 Keiichi Matsuura）

会記・Proceedings

1992年度第2回役員会

1992年9月8日（火）、於東京水産大学資源育成学科会議室

出席者：岩井、沖山、新井、松浦、多紀、佐野、富永、藤田。

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 会長：日本動物学会から動物科学研連委加盟学会宛に同学会の社団法人化に対する賛同を求められ、副会長と相談の上、同意書に署名し、返送した。編集：新編集委員会発足後、投稿状況は5ヶ月で28篇で編集作業も順調。39巻2号の掲載論文は9篇、手持ち原稿52篇。編集主任が39巻3号から多紀氏（東京水産大学）から宮氏（千葉県立中央博物館）へ引き継がれる。庶務：文部省の平成4年度の科研費補助金は210万円。学術会議水産研連主催のシンポジウム「地球環境と水産業」の共催を承諾した。学協会著作権協議会と権利委託契約をし、権利委託手数料（2,060円）の支払い手続きをした。1993年度の年会時に開かれる編集委員会、評議員会の日程変更（研究発表の前日開催）を両委員会委員に通知した。
3. 1993年度の海外向け購読料を1ドル130円のレート設定から125円にすると決定した。
4. 1993年度年会および会告について検討した。
5. 魚類学雑誌の総目録作成委員の富永氏から、総索引（author index, new taxon index, タイトルに基づくsubject index）は全体で134頁となり、近日中に印刷へ回す旨、報告があった。
6. その他、学術会議水産研連主催のシンポジウム「地球環境と水産業」が8月7日（金）、日本学術会議で開催された。

日本学術会議だより No. 27 (1992年11月)

日本学術会議第115回総会（第15期・第4回）が10月21日～23日の3日間開催された。

総会の初日には、会長からの前回総会以降の経過報告

に続いて、運営審議会附置委員会、部会、常置委員会、国際対応委員会、特別委員会の各委員長、部長からの報告があった。また、本年9月27日から10月11日までの間、二国間学術交流委員会の代表団がアメリカ合衆国を訪問し、アメリカ合衆国の学術の現状を観察するとともに、大統領補佐官を始めとする連邦政府機関の関係者、国立科学財團の関係者、その他関係機関の関係者との意見交換を行い、多大なる成果が得られたとの訪米報告が行われた。午後からは各部会が開催され、国際対応委員会や研究連絡委員会の在り方等について審議が行われた。なお、二国間学術交流の成果等に関する「平成4年度日米学術交流について」の会長談話を21日付けで発表した。

総会2日目には、学術分野における国際貢献に関しての自由討議が行われ、国際貢献の意義、方針等について活発な討議が行われた。本件については、日本学術会議第15期活動計画の中に重点目標として掲げられており、また、昨年秋の第113回総会において内閣官房長官から、学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう求められ、以来、日本学術会議としては重要な案件として審議してきたものである。午後からは、米スペースシャトル「エンデバー」で微小重力実験に取り組んだ毛利衛さん、向井千秋さん、土井隆雄さんの三宇宙飛行士を招き、実験成果等の報告をしていただくとともに会員との意見交換が行われた。なお、「学術分野における国際貢献について」の会長談話を22日付けで発表した。

総会3日目には、文化としての学術特別委員会を始めとする各特別委員会、各常置委員会が開催された。

会員異動 (1992.4.1-11.30)